

## テクノロジーで若者の地方自治への参加を促進する活動家

2026/02/10

国連人権高等弁務官事務所

2025年11月、[ヤング・アクティビスト・サミット](#) (YAS) がジュネーブで開催された。2025年のテーマは「From Hashtag to Action (ハッシュタグからアクションへ)」。テクノロジーを使い、社会や環境問題の解決に取り組んでいるアクティビスト5人が代表に選ばれた。そのうちの一人は大阪出身の川崎レナさんだ。川崎さんは、若者の声が政策に反映されるよう、自治体と協力してさまざまなプログラムを進めている。愛媛県新居浜市では、街中に散りばめられたQRコードをスマートフォンで読み取って、直接地元のリーダーにアイデアを届けることができる仕組みをつくった。政策への参加以外にも、アートを活用した教育プログラムを通して、子どもたちと高齢者がつながる機会を作り、「新しいことに挑戦する」ことで、創造性や地域への関わりを促そうとしている。彼女が友人と共同で作ったNGO アース・ガーディアンズ・ジャパンは、若者が自然に親しみ、環境保護への活動に参加することをめざしている。こうした活動の多くは、テクノロジーに大きく頼っているが、彼女はデジタルツールの促進自体が目的ではないと言う。「デジタルツールは対面でのコミュニケーションの代替にはなるが、とって代わることはできない」。むしろ、テクノロジーをリアルワールドへの関わりの入り口と考えている。「デジタルツールを使うことで、その限界を知り、時には現実に立ち戻ることの大切さを実感できます」。

【記事全文】[Activist uses tech to promote youth participation in local governance](#)